

令和元年7月実施 生徒による授業評価 まとめ

木曽青峰高等学校

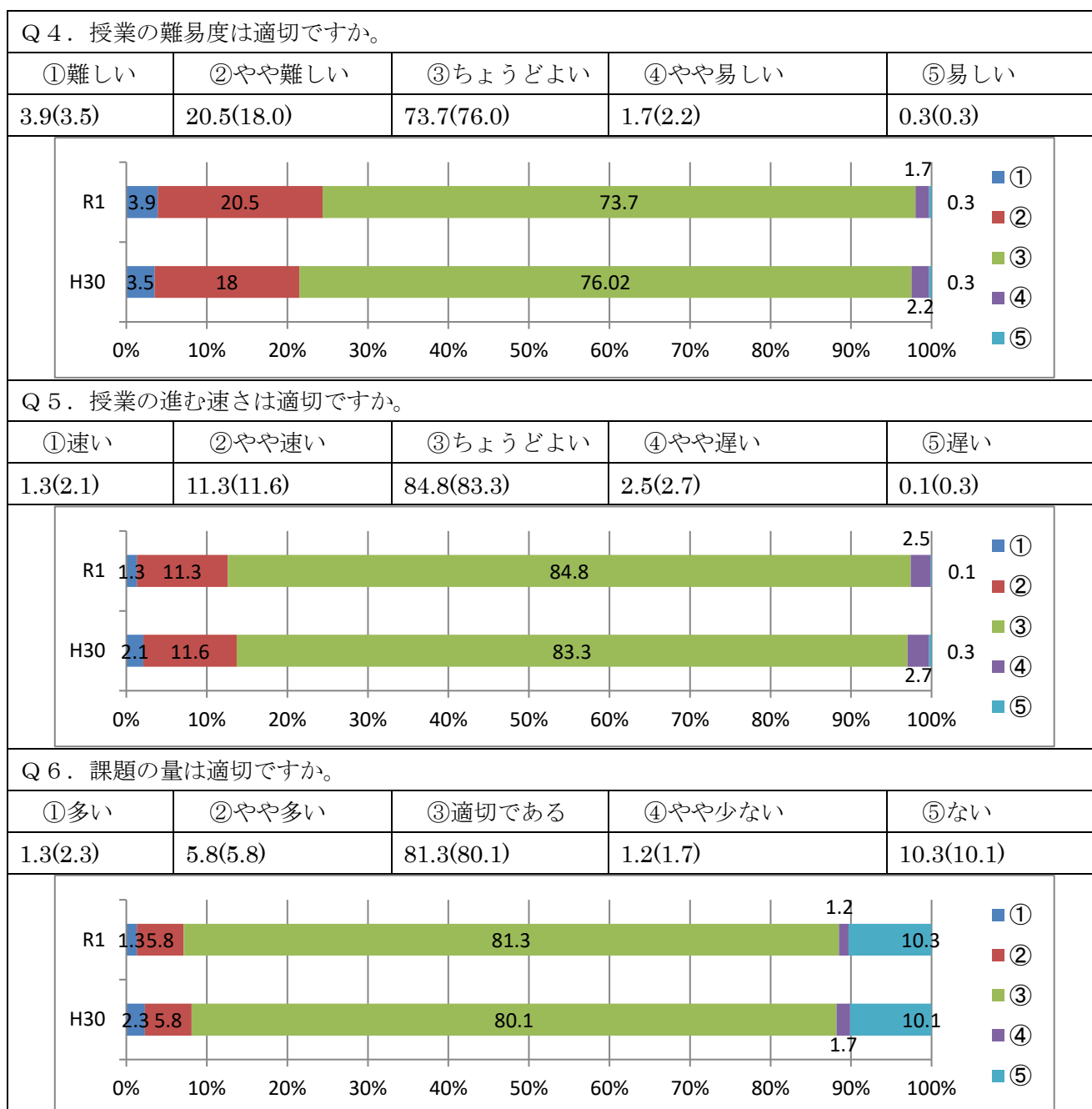
本校では、毎年7月に全生徒に対し、全職員・全講座に関する「授業評価アンケート」を無記名で実施し授業改善に役立てています。今年度も座学用・実習を伴う科目用などのアンケート用紙を作成し実施しました。それぞれのアンケート用紙に6項目の調査項目と記述部分を設けました。

座学用アンケート項目6項目・実習を伴う科目用アンケート共通の3項目の全日制・定時制を合わせた結果は下記の通りです。

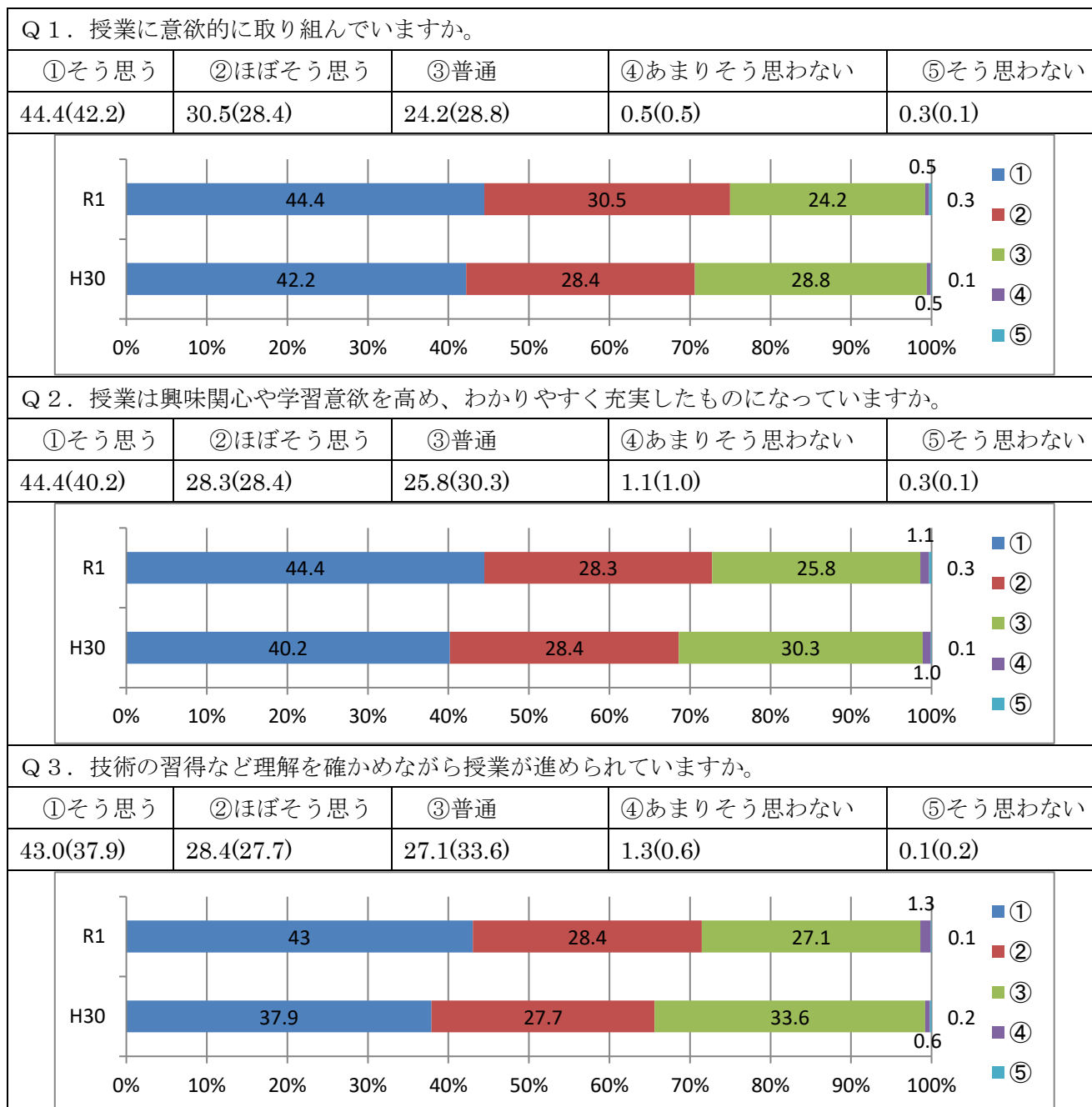
単位は全て%、カッコ内はH30年度

【座学中心の科目用授業アンケート結果】……2669件

Q 1. 授業に意欲的に取り組んでいますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
26.9(24.6)	32.7(34.2)	37.9(38.6)	2.3(2.3)	0.2(0.3)
Q 2. 授業は興味関心や学習意欲を高め、わかりやすく充実したものになっていますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
30.8(30.3)	35.4(32.6)	29.8(33.6)	3.6(2.9)	0.4(0.6)
Q 3. 問いかけや小テストなど理解を確かめながら授業が進められていますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
28.6(26.7)	30.2(28.1)	37.9(40.9)	2.8(3.7)	0.5(0.6)



【実習中心の科目用授業アンケート結果】……1492 件



なお、以下に各教科の分析内容と授業改善の方向性についてまとめました。

●全日制 生徒による授業評価 各教科のまとめ

1 分析した内容（教科毎の集計と個人の集計の比較、自由記述から等）

教科	ま と め
国語	・Q1 生徒の意欲的な取り組みについては、「そう思う」「ほぼそう思う」が6割近くで、概ね前向きに授業に取り組んでいると思われる。 ・Q2 生徒が興味関心また学習意欲を持てるかについては、7割近くが肯定的な評価であった。とはいえ、3割が「普通」、また、全体の4%が「分かりやすく充実した授業」と「思っていない」点を真摯に受け止め、授業内容のさらなる改善に努める必要がある。 ・Q3 小テスト類は担当職員それぞれが丁寧な解説を心がけている。今後も継続したい。 ・Q4 難易度については昨年度より「難しい」「やや難しい」と感じている率が増えた。共通テストを見越し、昨年度までと授業で扱うレベルや考査の問題の内容を変えていることも影響していると思われる。ただし、その難しさを肯定的に受け止め、前向きに授業に取り組んでいこうという記述も多いため、この「難しい」はかならずしもネガティブなものではないと考える。 ・Q5 授業の進度およびQ6 課題の量はほぼ適切だといえる。ただし、専門科で一部進度が速いと感じている生徒もいた。実態に合っていなかったと思われるので、今後も学科に合った配慮をしていきたい。
地歴・公民	・多くの生徒からは良い評価をうけている。 ・理解度を確認したり問いかけをするなどしながら生徒が主体的に参加する授業をつくる工夫はしているが、更に取り組みがよくなるように新たな策を模索しなければいけない。他教科に比べて地歴公民は特に問いかけの項目の割合が低い。 ・人数の多い科目は少ない科目に比べて取り組みがよくないことが増えた。
数学	・Q1「授業に取り組む姿勢」Q2「授業のわかりやすさと充実」Q3「理解を確かめながらの授業」においては、「①そう思う ②ほぼそう思う」を選択した生徒が、前年に比べ11%～20%増加した。 - 各教科担任が授業内容を工夫し、生徒主体の授業を展開した結果と考えられる。 ・Q4「授業の難易度」Q5「授業の進む速さ」Q6「課題の量」においては、「③ちょうどよい」を選択した生徒が、前年に比べ7～14%増加した。 - 習熟度別授業や文系理系講座において、生徒の様子を常に把握しながら授業を行った結果であり、今後も続けていきたい。
理科	・Q1、Q2とQ4は連動していない。大学入学後を考えれば難しい内容も高校でやらざるを得ない。内容が多いので時間の都合上丁寧にできにくいこともある。 ・自由記述欄の内容について、改善に取り組んでいる。（黒板の字が読みにくい。問いかけをしてほしい等）
保健体育	<体育> ・昨年度よりも「安全への配慮」がなされていると感じる生徒が多く、今後も継続し、さらに安全に活動できる活動内容、場を考えていきたい。 ・「意欲的に取り組む」生徒の割合が高く、生徒は前向きに授業に取り組んでいると思われる。

保健体育	<保健> ・「意欲的に取り組んでいる」「興味関心や学習意欲を高める授業」と感じる生徒の割合が高い。生活に密着した内容を取り扱っていることや、担当者ごとに工夫しながらＩＣＴを活用したりグループワークを行ったりしているためと思われる。
芸術	・Ｑ１、２、３ 昨年度よりも「そう思う」と回答した割合が増え、意欲的に授業に取り組んでいる生徒に助けられていると感じている。さらにわかりやすい授業を心掛けたい。 ・Ｑ４ ３％と少ないが「あまりそう思わない」と感じている生徒がいるので、個別の能力に応じた教材や、指導をしていきたい。 ・自由記述欄には前向きな記述が多かったので、それに答えられるよう教材研究をしたい。
外国語	Q1Q2（参加意欲等）について ・「授業に意欲的に取り組んでいるか」の問に対しては「そう思う」「ほぼそう思う」と答えた生徒は 68％（昨年度 67％）であり、昨年から変化なく、ほとんどの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる。 ・「学習意欲を高め分かりやすく充実した授業になっているか」に対して、「そう思う」が 31％（昨年度 34％）でやや減少しているが、「ほぼそう思う」を合わせると 71％（昨年度 73％）であり、例年通り習熟度別講座の少人数講座、ICT 利用等が効果をあげていると思われる。 Q3Q4（授業理解、小テストなど）について ・「問いかねや小テストなど理解を確かめながら授業が進められているか」の問いに対して「そう思う」「ほぼそう思う」が 64％（昨年度 68％）とやや減少した。「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた生徒は 4％であるが、授業の中の様々な場面でより丁寧な確認作業をしていくことが求められる。 ・授業の難易度について 28％（昨年度 25％）の生徒が「難しい」「やや難しい」と回答しているため、今後教材の選択の際には考慮していく必要があるだろう。 Q5Q6（進度・課題）について ・授業進度が「速い」「やや速い」と答えた生徒が 13％（昨年度 19％）と減少し、「ちょうどよい」と答えた生徒が 83％（昨年度 79％）と増加しているのは、各先生方の工夫によるものと思われる。 ・課題の量についてはほとんどの生徒が「適切である」と解答しており、昨年度から変化は見られない。 全体を通して ・生徒の学力も変化しているため、よく生徒を観察し授業改善、教材の選択などを行っていければよい。

家庭	・授業への意欲、充実度については、6割以上がそう思うと回答している。おおむねよく取り組んでいると考える。(Q12) ・進捗難易度については8割以上が丁度よいということである。今後も様子を見ながら進めたい。(Q345) ・課題、実習についてはおよそ8割が適切ということであるが、増量を希望する声もあった。今後の授業内容のなかで検討していきたい。(Q6)
森林環境	・昨年と比較しQ1～3において、「そう思う」(充実している)の比率(%)が増加した。 ・どの学年の生徒も森林環境科の内容をよく理解した上で入学しており専門科目に対する興味関心が高い。
インテリア	・TypeAD(専門科座学、実習) - Q1 生徒自らの授業への取り組みは普通を含めた数値がほぼそう思うの方向にシフトした。 - Q2 授業は興味関心や学習意欲を高め充実した内容になっているかについては、昨年より概ね高くなっている。 - Q3 技術の修得など理解を確かめながらの授業進行については、肯定的な方向へポイントシフトしており普通以上の肯定的意見として表れている。 - Q4 授業中の安全確保については普通以上の肯定的意見が全てである。 - Q5 授業の進む早さについては昨年より改善が見えている。速いについては生徒作品の大きさにも関係するので今後も注意していきたい。 - Q6 実技の量についてはやや多い以上が約10ポイント改善されている。少ないと不満を持つ生徒も増えているのでバランスを考えた改善をしていきたい。

2 今後の授業で改善したほうがよい点等

教科	ま と め
国語	・科目、もしくは学科の目指すところにふさわしい補助教材の充実や使用教材の精選。 ・普理と専門科の進捗や授業内容の区別が難しいが、時には専門科でも発展的な内容を取り入れ生徒の意欲向上を図る必要がある。 ・「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)」は万能ではない。教材や科目、またそれを受ける生徒にニーズにより向き不向きがあり、その効果や活用法について、更に研修が必要である。 ・共通テストに対応するための授業のあり方。 ・新教育課程を見越した今後の授業のあり方。 ・電子機器の活用。
地歴・公民	・小テストの実施、テスト前の課題プリントなどに改善の余地がある。教員間で意見を出し合い、取り組んでいきたい。 ・全体の20%程度が難しいと感じている。課題等を行うことによってこの問題を解決するための取り組みを行っていきたい。 ・視聴覚教材をもっと取り入れるなどの取り組みが必要である。
数学	・アンケート結果から生徒は興味関心および学習意欲を持ちながら授業を受けている様子が見られるが、今後は電子黒板の活用やグループワークの導入等、生徒がより意欲的に授業に取り組めるような工夫をしていきたい。

理科	・確認テストは好評。グループワーク、テスト持ち込み可など効果的なものは継続して取り組んでいく。 ・低い部分は改善に取り組んでいく。
保健体育	<体育> ・「実技の量がやや少ない」と感じる生徒の割合が増えたため、講座ごとに生徒の実態に即した運動量を検討していきたい。 <保健> ・生徒の意欲に対して応えられるような授業内容の充実を図りたい。 ・今後もＩＣＴを活用したりグループワークを行ったりし、理解を深めていきたい。
芸術	・これまでと同様、知識、技術の定着を確認する場を設定していきたい。 ・個別の能力に応じた教材、指導をしていきたい。
外国語	・ほとんどの講座を習熟度授業で行っているが、同じ講座でも理解度に差が出ているため、補習での対応も含め、上位を伸ばし、下位を底上げする工夫が一層必要である。
家庭	・教室の機器が充実しているので活用できるように工夫したい。 ・より充実した内容になるように展開を工夫したい。
森林環境	・特に実習における安全教育については引き続き重視していく。
インテリ ア	・対策に充分は無いという教訓から、安全に対しての取り組み、配慮を続けてゆく。

●定時制 生徒による授業評価 各教科のまとめ

1 分析した内容（教科毎の集計、自由記述から等）

T y p e A 座学において ・Q 1、Q 2、Q 3においては①そう思う、②ほぼそう思う、が昨年より増加しており各学年共に授業に意欲的に取り組み、理解や充実感が高まっている。 ・Q 4の難易度に対しては①難しい、②やや難しい、が増加しているが、生徒に合わせるだけでなく、意欲的に取り組んでいるからこそ、多少負荷をかけて力を付けさせることも時に必要であると考え - る。 ・Q 5、Q 6については昨年と変化がなく適切である。 T y p e B 実習教科において ・Q 1、Q 2、Q 3、Q 4、については昨年より②ほぼそう思うが増加しており良好である。 ・Q 5の速さについては適切であるが、Q 6の量に関しては負担に感じている生徒が増加している。

2 今後の授業で改善したほうがよい点等

・授業の難易度に関しては、今年は意欲的に取り組んでいる生徒が多いので難度を上げていくことも必要であるが、丁寧な指導と共に、理解の確認を怠ることなく進めていく。また、適切な評価を行い、生徒が達成感や、充実感を得られるように指導することが必要と思われる。 ・実技についても同様に、適切な評価をしながら生徒の学修に対するモチベーションを高めるように努めていく。
--

【まとめ】

授業は生徒と教師、一緒に作るものです。このアンケートを通じて、生徒は自らの授業に対する姿勢を確認し、教員は自身の授業がどのように受け止められているかを客観的に把握し改善に役立てています。どの学年・どの学科・どのクラス・どの講座でも「授業第一主義」であることを、教員生徒が互いに再確認し、家庭学習も含め、より一層の自律的な学びを目指すよう努力しています。